

最近アロマテラピーという言葉をよく聞きます。これは“香り”と“治療”を合わせた臭覚を刺激する植物療法で古くは宗教的にも利用されていたと言われていました。ハーブなどの香味成分を肌に擦り込んだり、匂いをかいだりすることで覚醒、睡眠、鎮静などの心理的効果が大きく特にストレスに伴う心身症に有効な治療法として注目されています。

最近では職場やホテルなどに芳香発生器が置かれ、仕事の効率化を図ったり、快適空間の演出が図られたりしています。

先日専門家にお会いしましたが、子ども達のストレスを緩和できる手助けにならないかと考えています。

< 第 29 回 ほほえみの会 >

今回は 8 人の出席でそれぞれの状況や悩みについて話し合いました。

自家骨髄移植を 2 回やり、白血球を上げる薬を使っているにも関わらず 前後から上がってこない。個室から出られない。本人はだいぶストレスがたまっている様子で母親が話しかけても無視。自分の指の皮をむいていてあちらこちらから血が出てきてしまっている。

ずっと付き添っている母親のストレスもたまってしまう。

子どもが風邪気味だけれども予防接種をしてもいいものか。

先生からは「熱がなく鼻水ぐらいならいいのではないか」という話がありましたが、最近では予防接種での事故が話題となっており、事故があったときは親とその医師の責任となるので、医師も慎重になる傾向にあるとのことでした。

骨髄移植を受けた後、身長、体重など体の発育に障害が出ているため、薬を使って成長ホルモンを増進させる治療が出来るかどうかの検査をした。

この薬は使用すると白血病の発生率が高くなると聞いたが心配。危険性を犯してまでやる必要があるのだろうか。

今度小学校に入学するが学校で薬を飲むのに心配。

本人も教室で飲みにくいだろうし、忘れてしまうこともあるだろうから養護の先生に頼んでおいたらどうだろう。実際そうしているという人の意見もありました。

子供が産まれるので臍帯血の採取を希望している。

出産予定の総合病院で相談をしているが、夜間や土日など先生や看護婦さんの少ない時間帯には採取できない。また移植に利用できるくらいの量が取れるかどうかはやってみないとわからないという。

今まで数十例採取したがそれらは本人の希望ではなく、病院側からの依頼で採取したもの。最近は培養して増やす研究も行われているという事でした。

次会は 月 日(日) 12時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一